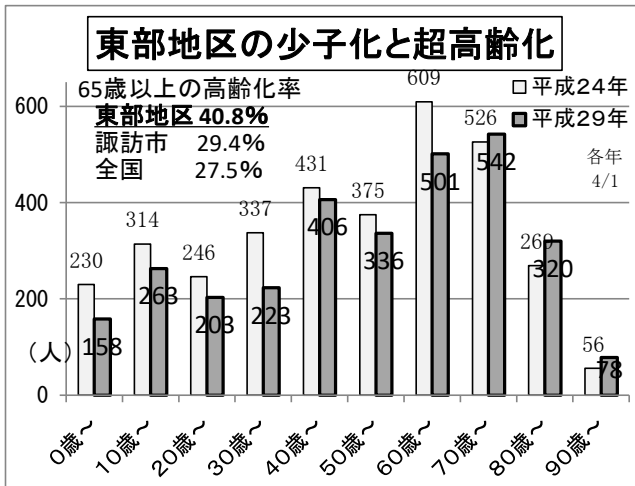


東部地区の激しく進む少子化・高齢化・人口減少に歯止めを

統計資料：諏訪市役所市民課より



65歳以上高齢者が40%を越しました

5年前の平成24年に34.0%だった高齢者比率が29年には40.8%になりました。急速な高齢化の進行です。諏訪市全体の29.4%、全国平均の27.5%と比べても極めて高い比率です。

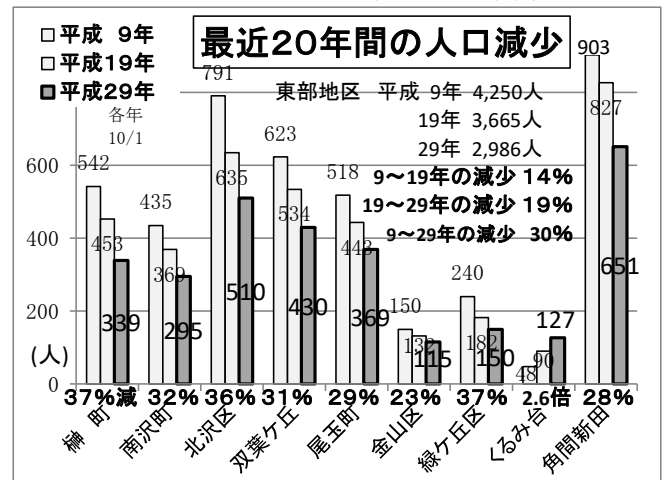
70歳代が最も多い年齢層です

年齢別では70歳代が一番多くなりました。これからもベビーブーム期の人達が70代に入りますので、この層が地区人口の中心となります。困難の多い高齢社会では、地域の支えあい活動が一層期待されますが、共働きや子育て・教育費などで50代までは支援活動の余裕がありません。また人数も多くありません。60代は先行きの不安や人手不足から多くの男女が就労しています。80、90代の人数は増える一方です。地域の助けあい活動の担い手になれるのは70代です。

激しく進む少子化とその原因

0～19歳の子どもは5年前に544人いました。それが29年には421人に激減しています。5年間で24%も減少しました。20、30代の子育て世代の人口も583人から426人へと27%も激減していて、これが子ども人口減少、少子化の原因です。親世代人口により子ども人口が増減します。

高卒後の進学率が80%強にもなったなかで、地区の子どもの多くは高卒後に諏訪を離れます。その後戻ってくる子どもは多くありません。結婚後は親と別居が普通となり、地区を離れる若者も沢山います。そのため20～30代子育て世代若者



が減少し、少子化がどんどん進行してきました。

高齢化が進む主な原因は少子化です

平成24年の高齢者数は1155人で、ベビーブーム世代が一挙に70歳前後の高齢者となった5年後の29年の高齢者数は1235人です。5年間の増加は80人に止まり、7%増えただけです。それにひきかえ、先にみたように子育て世代の20、30代の人口は27%も減少し、0～19歳子ども人口も24%減少しています。人数では両者合わせて280人もの減少になります。高齢者の比率が高まる主な原因は、高齢者人口の増加よりも、20～30代若者とその子どもの減少による少子化です。

人口は3000人を割り減少は急激です

20年前の平成9年の人口4250人が29年には2986人になり30%も減少しました。最近10年間では19%も減少し(分母が違う)、減少速度は一段と早まっています。人口急減の主因も20～30代若者の減少です。少子化の進行と地域人口の急減は、住民自身も常に関心を感じてきた問題です。

未来に向け 若者家族定住の増加策を

超高齢化、超少子化、右肩下がりの人口急減が進むなかで、地域の未来に明るさが見えません。空き家がどんどん増え、地区は寂れる一方です。

原因は若者の減少にあります。若者が増えれば子どもが増え、高齢化率は下がり、人口減少にも歯止めがかかります。共働き夫婦が子育てしやすく、若者にとって魅力あるまちづくりは、地域ぐるみで取組まねばならない課題です。(矢島記)

諏訪市の人口減少地域

11/19 矢島義恭

上諏訪の旧市街地では全域で人口が激減

